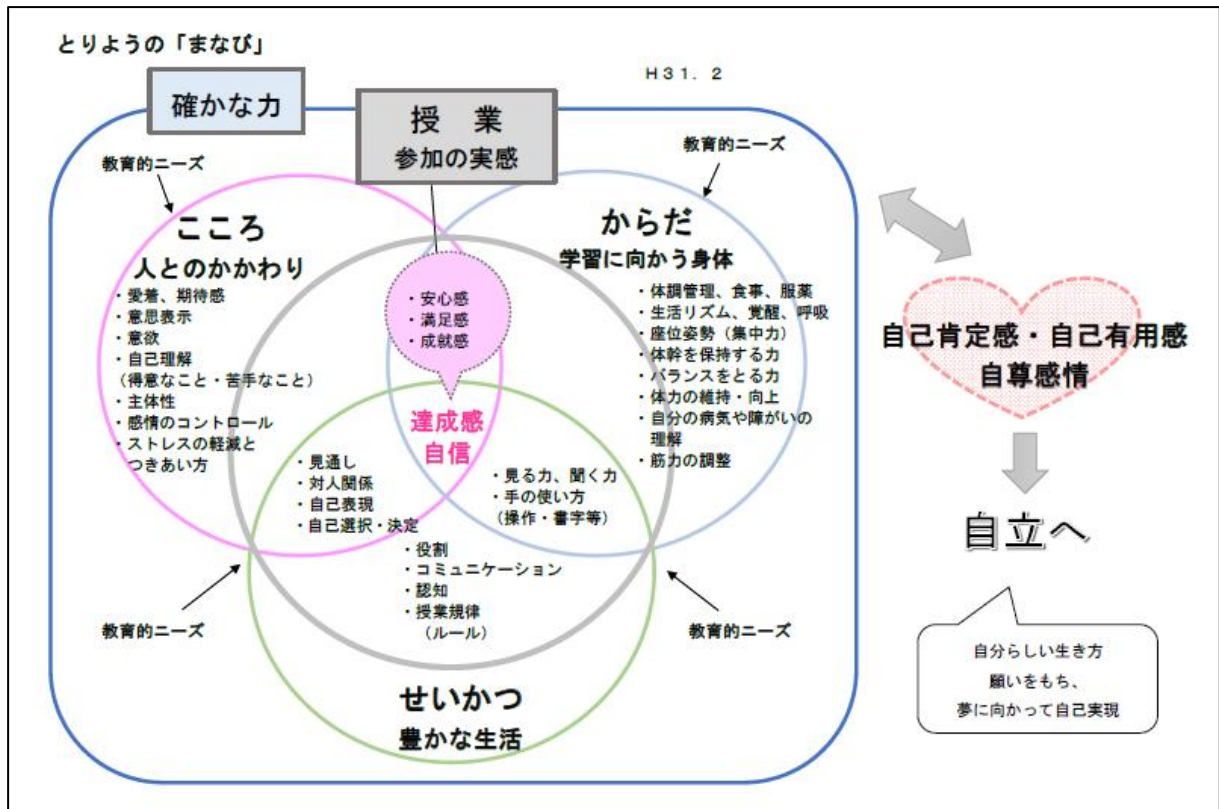


## 第2分科会 「教科指導等」

<p>テーマ</p>	<p>疾病や障害のある児童生徒の特性や学習状況に応じた教科指導はどうあればよいか</p>
<p>提案者</p>	<p>「個々の教育的ニーズを把握した授業づくり ～「できた」「わかる」といった自信や達成感をもつために～」 鳥取県立鳥取養護学校 教諭 谷 口 由紀子 教諭 濱 口 晋 輔</p> <p>「特別支援学校に農業教育を ～農場でこそ生徒のよいところが見つけれれる。 生徒も自分のよいところに気付く～」 山口県立豊浦総合支援学校 教諭 橋 本 博 之</p>
<p>助言者</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 講師 丹 治 敬 之 岡山県総合教育センター特別支援教育部 指導主事 村 上 直 也</p>
<p>司 会</p>	<p>鳥取県立鳥取養護学校 教諭 出 田 美 幸 山口県立豊浦総合支援学校 教諭 原 田 学</p>

資料① 「とりようの『まなび』」



資料② 「ICF関連図」

資料② ICF関連図

対象者: 年

作成者:

ICF関連図作成日: 年 月 日

次回再検討予定日: 年 月 日

相談したい内容 (主訴・依頼の思い等)

本人の思い、気持ち、願いなど (主体・主観)

〈個人因子〉  
体力、習性、経験、好きなこと、得意なこと、性格、困難への対処法など

〈健康状態〉 変調または病気等

・医療歴 ・療育歴  
・家族構成 ・生育歴に関する情報 (身体の発達等) など

〈心身機能・身体構造〉

〈活動〉 課題や行為の個人による実行

〈参加〉 生活・人生場面へのかかわり

○児童生徒の現在の様子  
 ・基本的な生活習慣 ・家族とのかかわり ・ことばの発達  
 ・学習面 (聞く、話す、読む、書く、算数・数学、知識の習得、得意・不得意、学級での相対的位置など)  
 ・行動面 (注意の集中、落ち着きのなさ、友だちや教師との関係等) ・興味関心 ・視覚に関する医療的診断の有無  
 ・本やテレビを見るときとの距離 ・光への反応 (眩しさなど) ・段差への対応 ・音や話しかけに対する反応  
 ・話し方や特異な言葉の使い方 ・発音 ・移動手段等での機器利用 ・上下肢の動き ・医療的ケア  
 ・日常生活での配慮の情報 ・発作、感染症等 ・他機関からの評価 ・学校生活管理指導表  
 ・運動の制限や給食への配慮 ・他者への関心や関わり方、機微力の確認 ・物へのこだわり ・生活リズム 等

〈環境因子〉  
物的・人的・制度的環境

・保護者の養育態度  
・兄弟姉妹の関係等、家庭環境  
・病院内での環境の把握 など

療育的ニーズのまとめ (最後に)

・「とりようの『まなび』」を窓口  
にニーズを整理する。

●○○・ココロ ○●●・からだ ○●○・せいかつ

『特別支援教育における ICF の活用 Part 3』(2013. 国立特別支援教育総合研究所) より参照

# 「とりよの『まなび』」を生かした本校の授業づくり

